

【代表研究者】 近藤 修

(助成決定時) 東京大学大学院理学系研究科 助教授

【共同研究者】 Ju Xueping 雲南省文物考古研究所 助教授

中山 光子 日本大学松戸歯学部 助手

【研究題目】

中国雲南省における後期更新世人類の形態学的研究

【研究の目的】

中国雲南省から四川省にかけての一体には、棺を切り立った崖にぶら下げるような埋葬習慣が過去にあった。これらの埋葬を hanging coffin と呼ぶが、この特異な埋葬習慣をおこなった集団の生物学的なデータはほとんど知られていない。この研究では 2002 年から 2003 年に雲南省で見つかった、唐代 hanging coffin の頭蓋について形態学的な記載を行い、中国、東アジア、東南アジアの現代人集団あるいは先史・歴史時代の古人骨集団と比較することにより、この集団の人類学的な位置を推定する。

【研究の内容・方法】

オーソドックスな頭蓋形態の分析として、計測値と非計測的形態小変異を観察し、データとする。

肉眼観察にもとづく、性別判定、年齢推定の結果、2 個の頭蓋はどちらも男性で、30 から 50 歳程度と推定される。比較集団として、中国現代人、東アジア、東南アジアの現代人、歴史時代・先史時代古人骨データなどを用い、頭蓋形態を評価する。集団間の類縁関係の推定は多変量解析を用い、マハラノビスの距離行列を多次元尺度によって 2 次元に展開したものと、クラスター分析の双方の結果を用いた。

【結論・考察】

中国雲南省で見つかった hanging coffin 頭蓋は、既報告分を含め、顔面が低く幅広いという特徴をもつ一方、鼻根の突出程度や歯槽の突顎程度にはばらつきが大きい。しかしながら、単一集団の形態学的変異性という観点では、他の集団の変異と比べても同程度であり、hanging coffin 集団を一つの集団と見なすことができる。

多変量計測値による生物学的類縁性では、hanging coffin 集団は現代中国人集団の中では荘族（中国南部に住む最大の少数民族）に近い。他の東アジア・東南アジア集団との比較ではユニークな位置を占める。すなわち中国大陸の集団とは類縁性を示さず唯一南中国の新石器時代人と近い結果を得た。この hanging coffin 集団の特異性は、現代ア

ンダマン諸島人、オーストラリア原住民や日本の縄文時代人がアジア大陸集団に対して示すものと似ている。現在のアジア大陸集団は、古くは北方系と南方系の2系統の集団の混じり合った結果であると考えられているが、hanging coffin 集団は南方系の血筋を受けながらも、長い間の孤立によって独特の形質を集団内に固定化したと考えることができる。